

2024年度（2023年度実施）慶應義塾大学大学院 医学研究科修士課程入学試験（第1期）

出題の意図

（出題の背景）

近年の生命科学の研究をする上で、個人で行う研究は現実的ではない。そのため、研究論文に複数の研究者が関わることは普通であり、論文著者の序列を決めることはしばしば議論を呼ぶ。事実、論文の筆頭著者になることは、学位取得に限らず、ジョブハンティングにおいても非常に重要な意味を持つ。そのため、チームとしての研究の進め方と、論文の筆頭著者になるルールなど、基本的な研究のリテラシーを問う。

（問題）

近年の科学研究は、一人の研究者のみによって進められることよりも、同じ研究室のみでなく、いくつかの研究室の研究者の共同研究によって進められることが増えていきます。しかし、研究成果をまとめて論文として発表する際には、「第一著者」を選ぶ必要が出てきます。最初に誰が第一著者になるかを決めておいても、研究の進展とともに個々の研究者の貢献度が変わってくることもよくあります。一つの論文に対して複数の第一著者を設定することはできますが、学位論文として用いることができるのは第一著者のうち一名のみです。

このようにチームで行われる研究において、あなたはどのように考えますか？またどのように進めるのが良いと考えますか

（解答に含まれるべき内容例）

研究の立案，研究全体の中での貢献度，論文執筆，責任著者，ギフトオーサー など

出題の意図

（出題の背景）

研究は興味に従い行うものであるが、研究成果には第三者による評価が伴うものでもある。その際にしばしば議論となる、「独創的であること」という、研究者間でも答えの割れるテーマについて、これから研究を本格的に始めるにあたり、思うところを言語化してもらおう。

（問題）

研究は、人がやったことをやっても意味がないので人と違うことをすることになります。しかし、人がやっていなければ内容が面白いかというところが単純ではありません。研究には独創的であることが最も重要と考えられています。そこで鍵を握るのが、「独創的であること」と「人と違うこと」です。

この二つのキーワードを解釈して、大学院でより良い研究をする方策についてあなたの考えを述べなさい。

（解答に含まれるべき内容例）

「独創的」と「人と違うこと（オリジナリティー）」の違いを上手く説明できること。研究分野によって、「独創的」、「人と違うこと」の捉え方が違う可能性もあること。研究開始初期とその後で考え方を必要があるか、など